

S 49-134187 A (1974)

(2,000円)



特 許 願 (8)

昭和48年4月27日

特許庁長官 殿

1 発明の名称

海中照明方式

2 発明者

住所

大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社内

氏名

伊 藤 三 郎

3 特許出願人

住所

(589) 大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社
伊 藤 正 治

氏名

4 代理人

住所

(8201) 大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社特許課内
伊藤士 竹 元 敏 夫

氏名

5 送付書類の目録

(1) 明 細 書
(2) 図 面
(3) 発 明 書
(4) 願 書 副 本1 通
1 通
1 通
1 通

① 日本国特許

公開特許

①特開昭 49-134187

③公開日 昭49.(1974)

②特願昭 48-48003

②出願日 昭48.(1973)

審査請求 未請求

庁内整理番号

⑤日

6658 51

93 F1

1 明 細 書

2 1. 発明の名称 海中照明方式

3 2. 特許請求の範囲

4 紫外線放射光源からの光を海中に設置された鏡
5 光反射板で可視光変換して対象物を照射する海中
6 照明方式。

7 3. 発明の詳細な説明

8 本発明は海中照明方式に関する。

9 海中にて照明を得る場合、大きい問題となるも
10 のに光害現象がある。11 光害現象は 例えば第1図において、光源1か
12 ら発した光が対象物2を捉えようとする時に、光

対象物が見えやすいという特徴を
従って対象物2を見るに際して
角度が小さい場合、第2図の如く
一度反射板4に当て、反射板4を
鏡の如くして対象物2を照明して
角度と照明角度を大きく採り光害
くする工夫が為されていた。

しかし、図は対象物2を向いて
この光源1から反射板4へ至る間
光害現象が起っており、第1図の
鏡の効果を得ることは出来なか
本発明はかかる点に鑑み為され

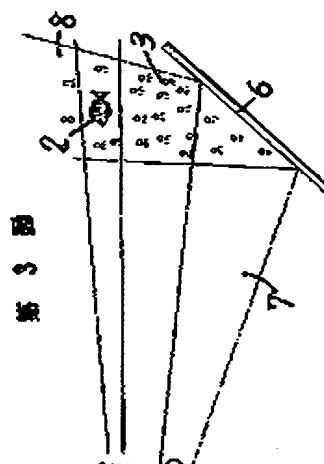
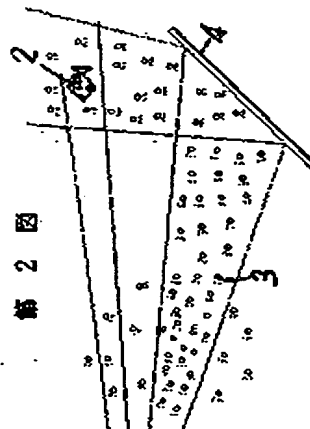
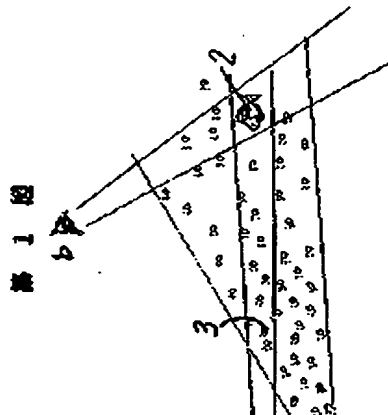
特許

1 蛍光反射板 6 に達した紫外線 7 は蛍光物質を刺激
2 し、蛍光反射板 6 から可視光線 8 が発して対象物
3 を照射する。

4 本発明は上記せる如く、紫外線放射光源からの
5 光を海中に設置された蛍光反射板で可視光に変換し
6 て対象物を照射する海中照明方式を提供するもの
7 で、事実上の光源たる紫外線放射光源と人の目の
8 位置が近くにあっても、実質的には蛍光反射板か
9 ら可視光が発して対象物を照射するので、第 1 図
10 における位置 1 から対象物を照らすのと全く同じ効
11 果があり、光害現象を有効に防止することが出来
12 た。又、付加的には、蛍光反射板は海中の任意の
13 位置に設置できるので、電源線を用いることなく
14 例えば観望塔から遠く離れた光域を配置する
15 のと同様の効果を得ることも出来る。

16 4 図面の簡単な説明

17 第 1 図は光害現象を説明する図、第 2 図は光害
18 現象を除去するために考えられる案の説明図、第
19 3 図は本発明による海中照明方式の説明図である。



特開

6 願記以外の発明者、特許出願人または代理人

(1) 発 明 者

姓 名

大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社内

氏 名

(2) 特許出願人

(3) 代 理 人

姓 名

大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社特許課内

氏 名

(7338)

弁護士 佐 藤 成 示

姓 名

大阪府門真市大字門真1048番地

氏 名

(7387)

松下電工株式会社特許課内

弁護士 川 瀬 幹 夫